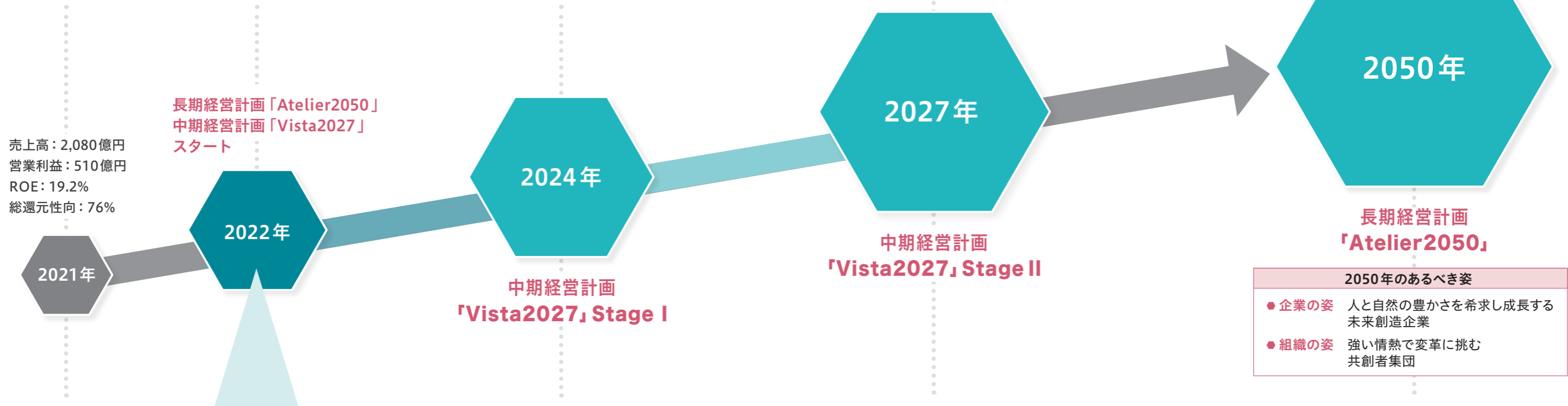


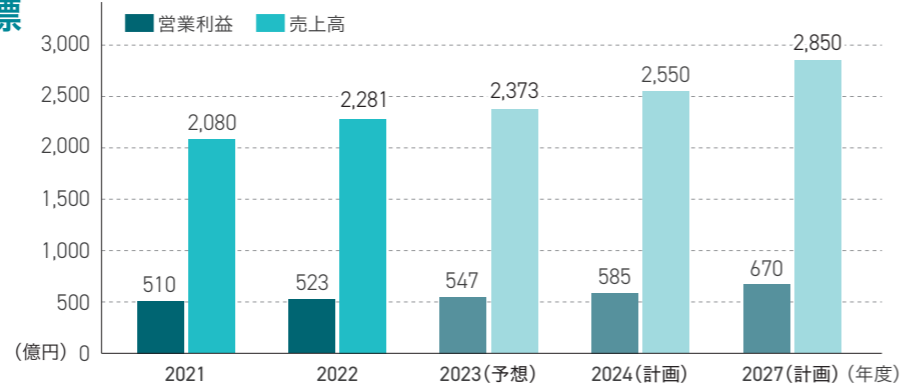
# 長期・中期経営計画 全体像と進捗

当社グループは、私たちが目指す方向性について、ステークホルダーに説明し、理解と共感を得ることで、未来の共創に挑みます。未来をつくりたいという強い思いや豊かな想像力を持って、中長期的な成長と企業価値の向上を実現し、社会を構成する一員としてサステナブルな社会の実現に貢献することを目指しています。



## 2022年 の進捗

### 財務指標



|      | 2021  | 2022  | 2023 (予想) | 2024 (計画) | 2027 (計画) |
|------|-------|-------|-----------|-----------|-----------|
| 売上高  | 2,080 | 2,281 | 2,373     | 2,550     | 2,850     |
| 営業利益 | 510   | 523   | 547       | 585       | 670       |
| 経常利益 | 537   | 558   | 555       | 595       | 680       |
| 純利益  | 388   | 411   | 415       | 440       | 500       |

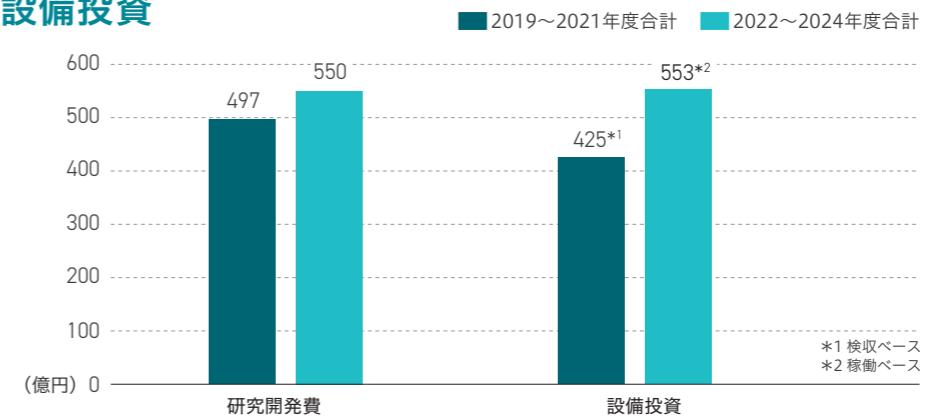
営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続で過去最高益を更新

|          | 2021  | 2022  | 2023 (予想) | 2024-2027 (計画) |
|----------|-------|-------|-----------|----------------|
| 売上高営業利益率 | 24.5% | 22.9% | 23.1%     | 20%以上          |
| ROE      | 19.2% | 19.4% | 18.6%     | 18%以上          |
| 配当性向     | 44.9% | 56.3% | 55.1%     | 55%維持          |
| 株主総還元性向  | 76%   | 78%   | 75%(目標)   | 75%維持          |

### 非財務指標

|                               | 2022  | 2027目標   |
|-------------------------------|---|--|
| 日産化学サステナブルアジェンダ該当製品の全売上に占める割合 | 55%以上   | 55%以上維持  |
| GHG 排出量 (Scope1+2)            | 327,663トン-CO <sub>2</sub> e<br>(2018年度比 9.8%削減) | 254,377トン-CO <sub>2</sub> e<br>(2018年度比 30%以上削減) |
| 社員意識調査の人材育成に関する質問への肯定回答率      | 60.5%   | 65%以上  |
| 研究所女性総合職比率                    | 14.8%   | 18%以上  |

### 研究開発費・設備投資

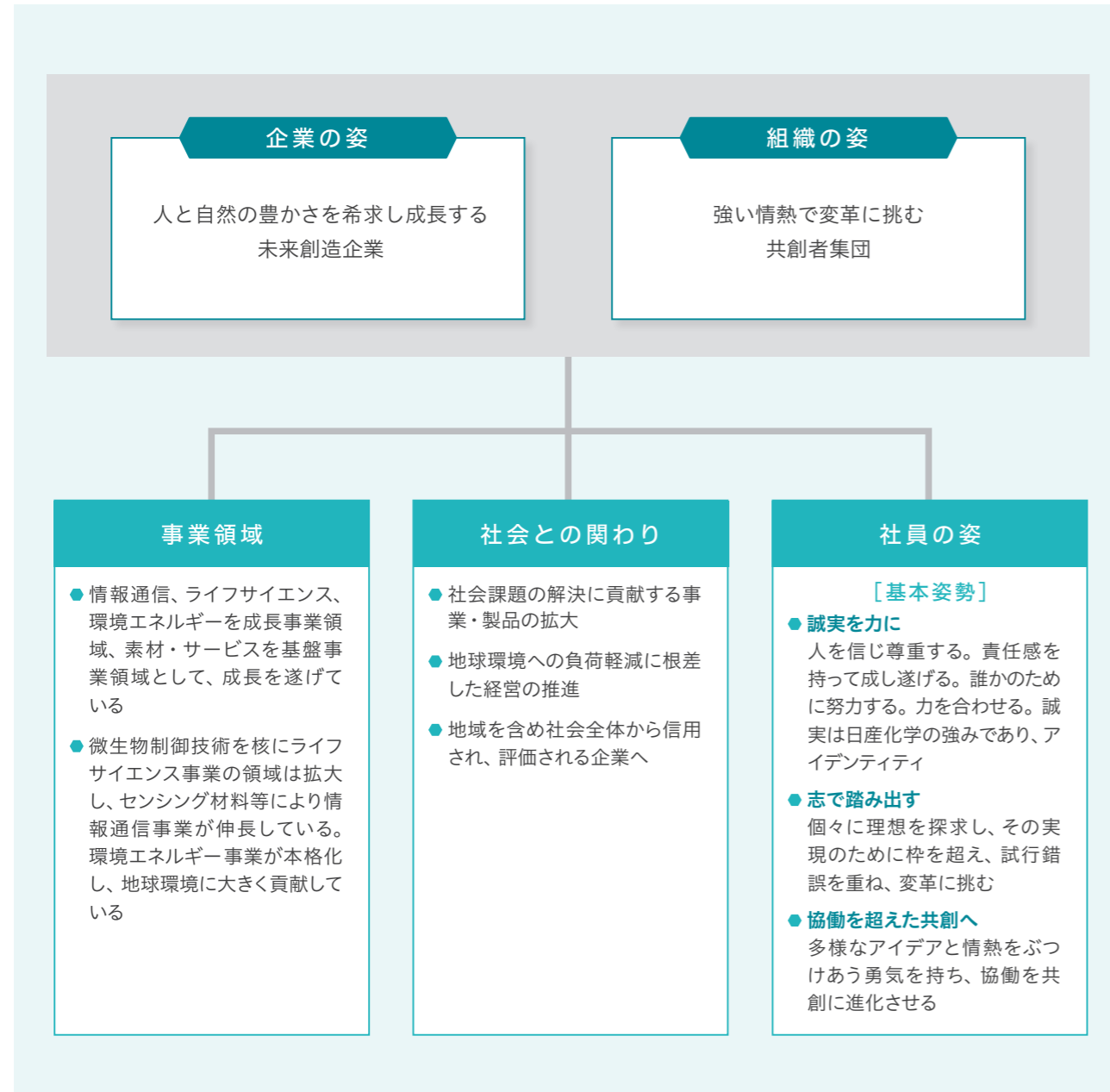


# 長期経営計画「Atelier2050」

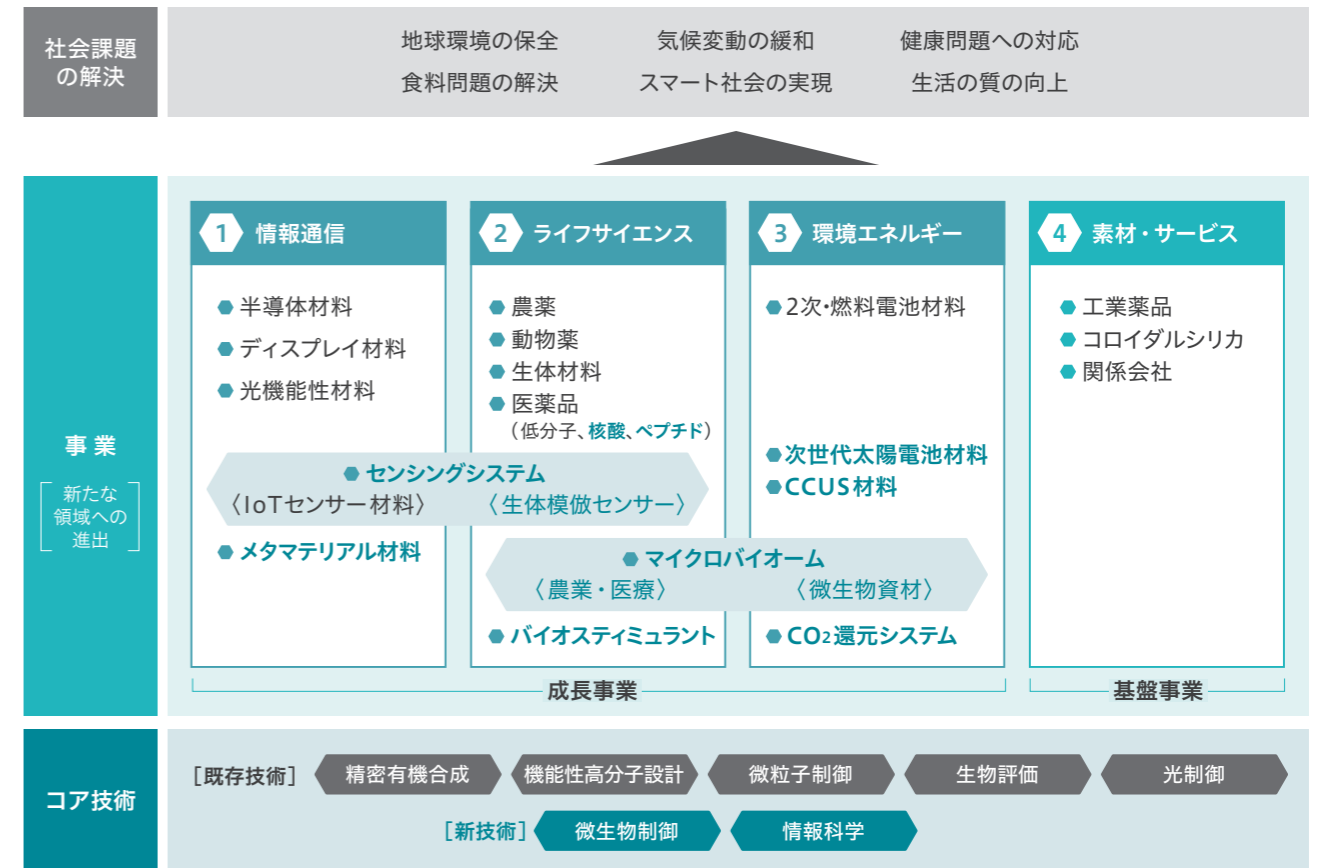
長期経営計画「Atelier2050」は、前長期経営計画を策定した当時から大きく変化した事業環境を踏まえ、2050年を見据えた社会課題・社会変化を改めて議論し、解決すべき課題・必要な取り組みからバックキャストして策定しました。2050年のあるべき企業の姿を「人と

自然の豊かさを希求し成長する未来創造企業」、組織の姿を「強い情熱で変革に挑む共創者集団」として、当社グループが社会課題の解決に寄与し、発展を続けていくための道筋を示した計画です。

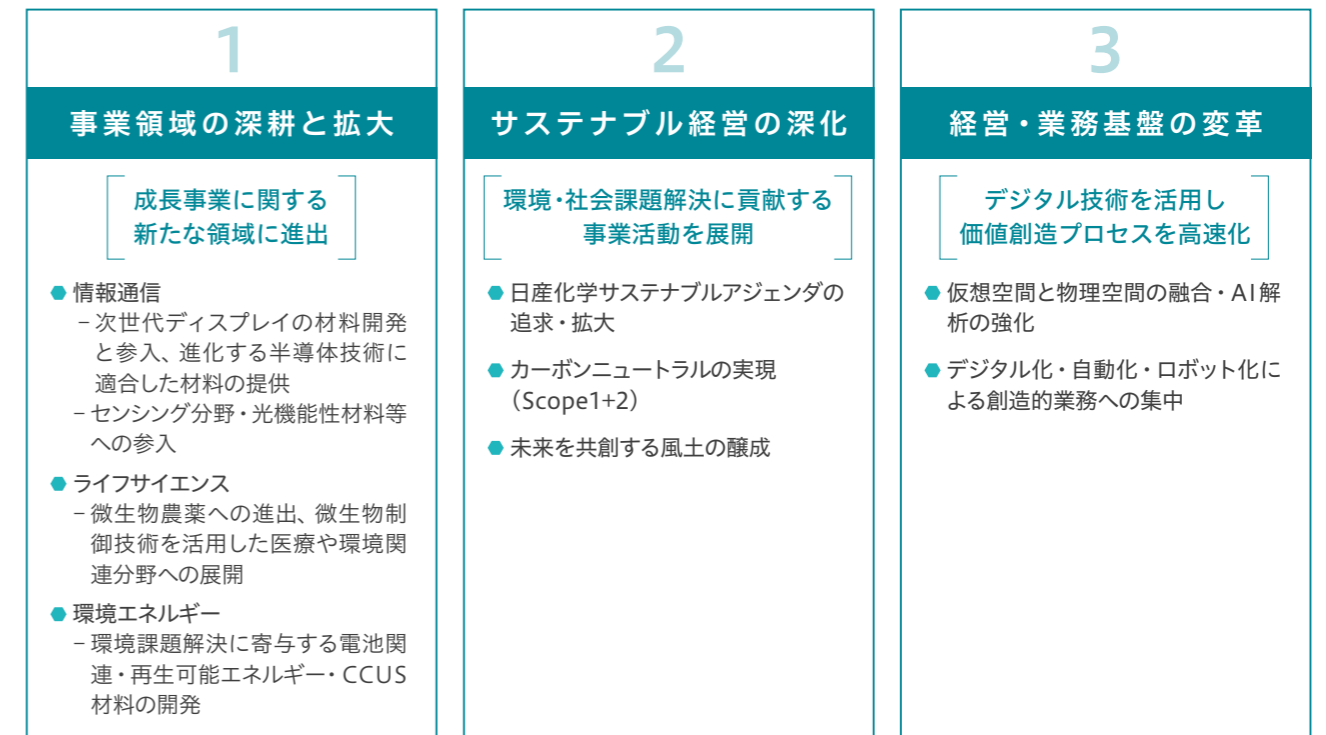
## 2050年のあるべき姿



## 事業領域

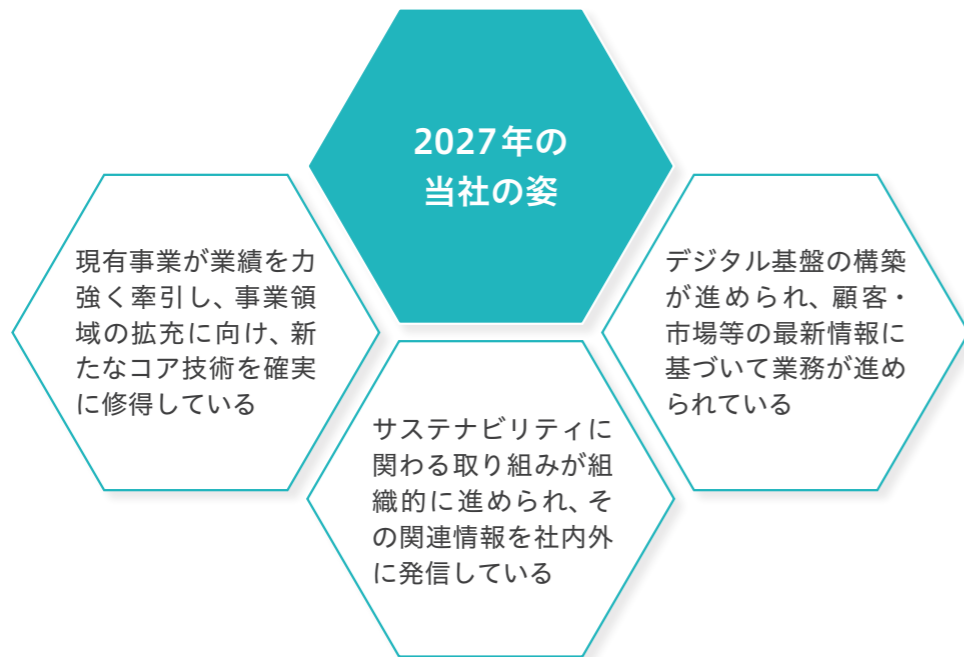


## 基本戦略



中期経営計画「Vista2027」は、長期経営計画「Atelier 2050」に掲げたあるべき姿へ至る通過点として策定した、2022年度を初年度とする6カ年の計画です。前半3カ

年(2022-2024)をStagel、後半3カ年(2025-2027)をStagelIIとしたこの計画を道標とし、当社グループの持続的成長を目指します。



2050年のあるべき姿の実現に向け、研究開発力の強化と企画力の向上を図る

- 現有コア技術の錬磨と開発領域の深化・拡充
- 新たなコア技術(微生物制御、情報科学)の育成
- マーケティング力、企画立案力の強化

サステナビリティに関わる取り組み・施策を推進し、関連情報の社内外への発信強化

- コーポレート・ガバナンスの強化
- 「サステナビリティ・IR部」の新設、関連施策の組織的推進
- 委員会活動の充実(サステナビリティ委員会・分科会設置による全社横断的取り組みの強化など)

意思疎通、効率改善などに寄与し、新たな価値の創造・共創を促す基盤・環境づくりを推進

- 経営戦略実現のための、人事制度の改定と人材育成
- 「デジタル改革推進部」の新設、DX・業務基盤改革の推進

成長源泉となる現有製品の伸長と新製品の確かな育成に向け、基盤整備、現有製品のコストダウンなどを実施

◎関連情報：「事業セグメント」P53-54  
「製品・サービス紹介」P55-56  
「事業概要」P57-66  
「研究開発」P25-27  
「知的財産」P28

## 1 日産化学サステナブルアジェンダ

社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画、日産化学サステナブルアジェンダを2022年度に始動しました。「地球の未来のためにできること (To Tomorrow)」と、「人の未来のためにできること (Be Happy)」に貢献する領域と設定しています。

該当領域の社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合を重要業績評価指標 (KPI)と定め、中期経営計画「Vista2027」では「55%以上維持」を目標として設定しました。2050年に向けて、コア技術の育成により対象製品・サービスをさらに拡大し、社会と当社グループの持続的発展を実現したいと考えています。

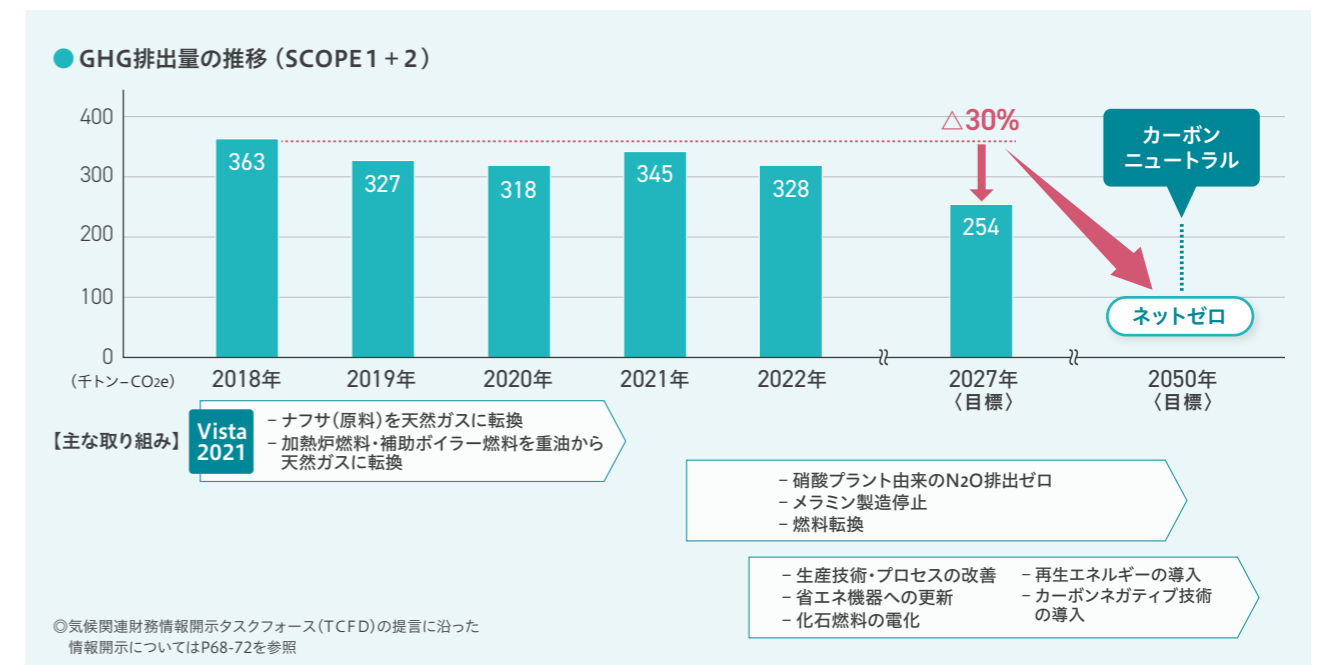


◎関連情報：「マテリアリティ」P31-32

## 2 カーボンニュートラルの実現

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、原燃料転換、省エネの推進、再生可能エネルギーの導入、硝酸プラント由来のN<sub>2</sub>O排出ゼロに向けた検討などに取り組んで

います。2022年度は、メラミン製造停止や小野田工場ボイラー燃料転換などにより、GHG排出量が減少しました。



◎気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に沿った情報開示についてはP68-72を参照